

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	24349
事業名	蛍光管・乾電池リサイクル事業費					
評価担当課	所属名	環)環境事業部 循環型社会推進				
	課長名	岡本 俊幸	担当者名	中塚 暁・佐藤 真広	電話番号	211-2928
施策名	主	-				
	副					
アクションプラン	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	戦略ビジョン	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	
事業の性質	<input checked="" type="radio"/> 経常経費	<input type="radio"/> 臨時的経費				
	<input type="radio"/> 内部管理	<input type="radio"/> 法定経費	<input type="radio"/> 指定管理			
事業内容	実施形態	<input type="radio"/> 直営	<input type="radio"/> 一部委託	<input checked="" type="radio"/> 全部委託	<input type="radio"/> 補助助成	<input type="radio"/> その他
	目的	短期	家庭から出る廃棄ごみの減量(2027年度までに1日1人あたり340g以下)			
		長期	水銀を含む使用済み蛍光管や乾電池等を分別回収・適正処理・資源化することにより、水銀による土壤汚染等の環境負荷を低減させるとともに、埋立地を延命させるため。			
	取組内容	<p>家庭から出る廃棄ごみの減量と水銀使用廃製品の適正処理を進めるため、以下の取組を行う。</p> <p>①市内の電器店、ホームセンター、スーパーなどの協力店に回収ボックスを設置し、家庭で使用済みとなった蛍光管を分別回収する。</p> <p>②びん・缶・ペットボトルの日に乾電池を別袋で分別回収する。</p> <p>③回収した蛍光管・乾電池等を(公社)全国都市清掃会議の広域回収処理事業により、処理施設に運搬し、水銀の適正処理及びリサイクルを実施する。</p>				
実施結果	<p>・使用済み蛍光管回収量:128t</p> <p>・使用済み乾電池回収量:220t</p> <p>・水銀使用廃製品(水銀体温計等)処理量:0.3t</p>					
事業実施における工夫点	各拠点からの蛍光管の回収や、処理施設への運搬を適切な頻度で実施するよう調整し、効率化を図っている。					
対象者	市民	開始	平成16年度	終了	0	年度
関連法令・条例・要綱等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則					
他都市の状況	政令市では札幌市を含む19市で蛍光管の分別回収を実施している。また、乾電池の水銀回収処理を実施しているのは札幌市を含む17市で、うち12市が全都清の広域回収処理事業による処理を行っている。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算
事業費	39,426	48,752	48,551	60,252
うち特定財源	3,520	0	48,551	0
人工	0.2	0.2	0.2	0.2
人件費	1,440	1,440	1,440	1,440
計(事業費+人件費)	40,866	50,192	49,991	61,692
事業費の内訳	令和3年度決算	<p>・回収・梱包 :12,650千円</p> <p>・一次移送 : 2,141千円</p> <p>・処理・処分費:22,116千円</p> <p>・選別 : 389千円</p> <p>・運搬費 :10,164千円</p> <p>・管理費・その他: 1,091千円</p>		
	令和4年度予算	<p>・回収・梱包 :12,625千円</p> <p>・一次移送 : 2,735千円</p> <p>・処理・処分費:25,696千円</p> <p>・回収ボックス: 942千円</p> <p>・選別 : 5,119千円</p> <p>・運搬費 :11,955千円</p> <p>・管理費・その他: 1,180千円</p>		

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	回収協力店の店舗数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	220	220	219	221	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	蛍光管回収量			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	143t	139t	129t	128t	
成果指標2	指標名	乾電池回収量			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	104t	147t	220t	305t	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・蛍光管:LED照明の普及により回収量・処理量は減少傾向にあるものの、市内全域に設けた回収拠点で年間100t超を回収しており、水銀使用製品である蛍光灯の適正処理・リサイクルを実施できている。 ・乾電池:令和3年10月に排出ルールを変更し、それまでの4週に1回から週1回の収集に変更し、市民の排出機会を拡大したことで、回収量が大幅に増加し、分別協力率も75%近くに向上した。 			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・蛍光管:市内220カ所に設けた回収拠点により、市民の排出機会を十分確保できていること、回収した全量を適正処理していることから、事業規模は適切である。 ・乾電池:排出ルールの変更により、市民の排出機会の確保を図ることで、適正処理が促進されていることから、現時点で事業規模は適切であるが、収集量の更なる増加により、今後の処理費用の増嵩が見込まれる場合には処理体制の見直しを検討していくことも必要になると考えられる。 			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・水銀含有製品を本市施設で適正に処理することはできないことから、全国都市清掃会議による適正かつ安定的な処理のための広域回収処理事業を活用した実施が適切である。 ・蛍光管は破損させずに回収することが必要となることから、ごみステーションでの回収は困難であり、事業者の協力のもと拠点回収による実施が適切である。 ・乾電池は、排出ルール変更により、これまでより大幅に適正処理が促進されたことから、実施手法は適切である。 			
対象者の満足度 (対象者のニーズにしているか)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・回収ボックスに排出された蛍光管、及びごみステーションで分別収集した乾電池は、全量適正に処理・リサイクルを行っており、市民のニーズにこたえられている。特に乾電池については、排出ルールの変更により回収量が大幅に拡大したことから、排出機会の拡大が市民ニーズにこたえたものであったと考えている。 			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	電池類には乾電池、コイン電池、ボタン電池、充電式電池と種類があり、それぞれ排出方法が異なることから、市民にとってわかりづらく誤排出につながる恐れがある。特に、誤って容器包装プラスチックに出された充電式電池に起因する発煙・発火事故が、全国の選別施設やリサイクル工場で発生していることから、適切な排出、処理に向けた収集体制の検討が必要である。				
前回の評価	<input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	選別・梱包後の乾電池の一時保管場所への移送業務を、蛍光管の回収・梱包等業務と一体業務とし、効率のかつ経済的な実施体制となるよう見直した。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	蛍光管は適切に回収・適正処理を実施できており、乾電池についても、排出ルールの見直しにより、適切な処理が促進されていることから、事業目的を十分に達成できている。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input checked="" type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 休止・廃止 水銀含有製品等の適正処理・リサイクルのため、蛍光管・乾電池等の分別回収を継続する。			
	予算	<input checked="" type="radio"/> 拡充 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> その他 排出機会の拡大により、乾電池の収集量が大幅に増加していることから、予算の拡充が必要である。		見直し効果額	0